

# サマリアの女とイエス

ヨハネによる福音書 4 : 5 - 30、39 - 42



司祭 ヨハネ 井田 泉

2023年3月12日

大齋節第3主日

聖光教会にて

今日は、イエスとあるサマリアの女の人との出会いに近づいてみましょう。

イエスはユダヤから北のガリラヤに行くのに、途中サマリアを通られました。当時、ユダヤとサマリアは対立してお互いに交際せず、ユダヤ人のほとんどはサマリアに対して差別意識を持っていました。しかしイエスはユダヤ人ですが、サマリアの人々を大切に思われていたのです。

イエスはサマリアのシカルという町に来られました。正午ごろのことです。イエスは旅に疲れて、井戸のそばに座っておられました。水が飲みたい。しかし水を汲む道具はないし、仮にあったとしても、<sup>よそ</sup>他所の井戸から勝手に飲むことは許されないのです。

そこに一人のサマリアの女の人が、水を汲みに来ました。イエスは言われました。

「水を飲ませてください」

「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」

いぶかしい思いで女の方は返事しました。ユダヤ人はサマリア人とは交際しないからです。

するとイエスはこう言われました。

「もしあなたが、神の賜物を知っており、また、『水を飲ませ

てください』と言ったのがだれであるか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう。」ヨハネ 4:10

イエスは妙なことを言われます。その人、つまりイエスのほうが生きた水を持っていて、女の人の方からその水がほしいと頼むべきだということです。話が逆転しています。

サマリアの女は疑問を口にするのですが、イエスはそれに対してこう言われました。

「この水を飲む者はだれでもまた渴く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」4:13-14

イエスは、このサマリアの女の人魂が深く渴いていることを感じとられたのでしょうか。ご自分の渴きよりも相手の女の人の渴きのほうが気になって、その渴きを癒やしたいと願われました。

女の方は言いました。

「主よ、渴くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください。」4:15

ここには二重の意味がこもっているかもしれません。一面では、おかしいことを言うこのユダヤ人を試してやろうという思い。しかしもう一方、彼女の心の底には、救いを求める激しい思いが起こっていたかもしれません。続きを読んでみましょう。

「イエスが、『行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい』  
と言われると、女は答えて、『わたしには夫はいません』と言  
った。イエスは言われた。『“夫はいません”とは、まさにそ  
のとおりだ。あなたには五人の夫がいたが、今連れ添ってい  
るのは夫ではない。あなたは、ありのままを言ったわけだ。』」

4:16-18

普通であれば、彼女はこんな話題を好まなかったでしょう。  
人のプライバシーにズカズカと入ってくるような人を憎らしく  
思ったでしょう。けれどもこのとき、彼女はそうは感じません  
でした。イエスの言葉には、苦勞してきた自分への思いやりが  
ありました。だれも今まで自分のことをこんなに深く受けとめ  
て理解してくれる人はなかった。イエスの目と言葉と声には深  
い愛がこもっています。まるで慈しみ深い神さまが自分に語り  
かけていてくださるようです。それで言いました。

「主よ、あなたは預言者だとお見受けします。」 4:19

イエスから神の声を聞く気がするからです。

けれども相手はサマリア人と敵対しているユダヤ人です。い  
かにこの人がすぐれた預言者であったとしても、自分との間に  
は大きな壁がある。自分たちサマリア人はこの近くの山、ゲリ  
ジム山で礼拝してきたし、他方ユダヤ人はそれを非難し、エル  
サレム神殿以外を決して認めない。彼女は言いました。

「わたしどもの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」

4:20

するとイエスは答えて言われました。

「婦人よ、わたしを信じなさい。あなたがたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。」 4:21

「まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。」 4:23

人々は、神が臨在されるのはエルサレム神殿だ、あるいはゲリジム山だと言ってきた。しかし神はそのような場所に限定される方ではない。「**霊と真理をもって**」、言い換えれば、人が切なる祈りと深い真心をもって礼拝するところ、そこに神が臨在される。今、あなたとわたしが一緒に祈るここに神がおられる。

彼女は今、神の臨在を感じます。神が真実と慈しみをもってこんなに近くにおられることに感動しました。同時に、この方は預言者以上の方だと思えてなりません。こう言いました。

「わたしは、キリストと呼ばれるメシアが来られることは知っています。その方が来られるとき、わたしたちに一切のことを知らせてくださいます。」 4:25

イエスは言われました。

「それは、あなたと話をしているこのわたしである。」 4:26

ああ、この方がほんとうにキリストと呼ばれるメシア、救い主に違いない、と彼女は思いました。喜びと感動が彼女を包みます。

しかし彼女はこの喜びと感動を自分だけのものにはしませんでした。メシア、救い主を待望している町の人々にこのイエスのことを知らせなければ。

「女は、水がめをそこに置いたまま町に行き、人々に言った。『さあ、見に来てください。わたしがおこな行ったことをすべて、言い当てた人がいます。もしかしたら、この方がメシアかもしれませぬ。』人々は町を出て、イエスのもとへやって来た。」

4:28-30

こうして彼女の呼びかけによって多くの町の人がやって来てイエスに出会い、イエスの言葉を聞いて信じました。

イエスは先ほどこう言われました。

「わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」 4:14

そのとおりのことが、この女の人に起こったのです。イエスから与えられた生きた水は、彼女の中で泉となって湧き出し外に溢れ出た。それだからこそ彼女は町の人を呼びに行ったのです。

イエスはこのわたしたちにも、その生きた水を与えてくださいます。

この聖書の話を読んでいるうちに、こんなが思いが起こってきました——主イエスさま、あのサマリアの女の人があなたに出会ったように、わたしもあなたにお会いしたい。だれにも出会いたくない日にも、あなただけにはお会いしたい。疲れて渴いておられるなら、水一杯を差し上げたい……

お祈りします。

主イエスさま、わたしたちの渴きを癒やす生きた水を持っておられるのはあなたです。あなたからその水をいただいて、あなたが言われたとおりに、わたしの中に泉が開かれて、永遠の命に至る水が湧き出ますように。

あなたはあのサマリアの女の人を、愛をもってすべてを理解されました。そのようにわたしのことをすべてわかってくださるあなたにお会いしたいと願います。そうしてあのサマリアの女の人に導かれて、救い主であるあなたにお会いしたい。主イエスさま、どうかほんとうにわたしたちをあなたに出会わせてください。アーメン